

TOSHIBA

東芝パッケージエアコン〈床置形スタンドタイプ〉 据付説明書



EH99874101-4

R410A冷媒機種

＜室内ユニット＞

MMF-AP454H
MMF-AP564H
MMF-AP714H
MMF-AP804H
MMF-AP1124H
MMF-AP1404H
MMF-AP1604H

＜リモコン：別売品＞

RBC-AMT32(ワイヤードリモコン)
RBC-ATX41(ワイヤレスリモコン)
TCB-AXR41(ワイヤレスリモコン受信キット)

お知らせ

- このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系R410A冷媒を使用しています。
- 本説明書は室内ユニット側の据付工事方法を記載しています。
- 室外機の据え付けは、室外機に付属している据付説明書に従ってください。
- この室内ユニットはR410A冷媒用です。必ずR410A冷媒用の室外機と組み合わせてください。
- 室内ユニットの電源は室外機とは別に専用電源を設けてください。
- 室内ユニットと室外機の配管接続には別売の分岐ジョイントまたは分岐ヘッダーが必要です。容量に合わせて選定してください。
- リモコンは別売です。取り付けは、各別売品に付属している取付説明書に従ってください。
- ワイヤレスタイプは、ワイヤレスリモコン（別売）とワイヤレスリモコン受信キット（別売）をそれぞれ購入してください。（別置きを受信部を壁等に取り付けるタイプとなります。）
- 室内ユニット据付の床面及び壁面が木製以外の場合、アンカーボルト（M8×L50以上）が6本必要になります。現地で調達してください。
- 別売の室内ユニット置台にはアンカーボルトが付属しています。
- 省エネneoリモコンRBC-AMS53組合わせの時は、リモコンに付属している据付説明書に従ってください。

付属部品

付属位置	部 品 名	個 数	形 状	収納場所
本体上部	壁面固定金具	1		
付属品袋	据付説明書	1	本紙	
	保証書	1	—	
	断熱パイプ	2		
	スクリューボルト	2 (4)		
	断熱材	2		
本体下部	結束バンド	4		スクリューボルト4(2)本で腰下に取り付け
	床面固定金具	2		

()内の個数は、MMF-AP112形、AP140形、AP160形の場合です。
床面固定金具は既にユニット本体に取り付けてあります。

もくじ

安全上のご注意	2
エアコンの据え付けについて	2
据付場所の選定	3
1.室内ユニットの据え付け	3
2.ドレン配管	4
3.冷媒配管	5
4.電気配線	6
5.応用制御	7
6.試運転	8
7.故障診断	9
8.フロン排出抑制法による冷媒充填量記載のお願い	11
9.室内ユニット設定確認	11

◇お客様への引き渡し

- 「保証書」「取扱説明書」とこの「据付説明書」を必ずお客様に渡してください。
- 「保証書」には必ず所定の事項（★印箇所）をご記入のうえ、お客様にお渡しください。
- 「取扱説明書」の内容を十分ご説明のうえ、引き渡しをお願いします。
(取扱説明書は室外機に付属されています)

日本国内専用品
Use only in Japan

安全上のご注意

- お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。つぎの内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示の説明	図記号の説明
警告 “取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（※1）を負うことが想定される内容”を示します。	禁止 △は、禁止（してはいけないこと）を示します。具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
注意 “取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷（※2）を負うことが想定されるか、または物的損害（※3）の発生が想定される内容”を示します。	指示 ●は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
※1: 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。 ※2: 軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。 ※3: 物的損害とは、家庭・家財および家畜・ペット等にかかる拡大損害をさします。	注意 △は、注意を示します。具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

警告

- 据え付け工事はR410A用に製造された専用のツール・配管を使用し、この据付説明書に従って確実に行う使用しているHFC系R410A冷媒は、従来の冷媒（R22）に比べ圧力が約1.6倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据え付けに不備があると破裂・けが、また水漏れや感電、火災の原因になります。
- 据え付けは、販売店または専門業者に依頼する
ご自分で据え付け工事をされると、水漏れや感電、火災の原因になります。
- 据え付け工事は、この据付説明書に従って確実に行う
据え付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。
- 小部屋へ据え付ける場合は万ー冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付けてください。万ー、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となります。
- フロン類をみだりに大気中に放出しない
フロン類を大気中に放出することは、法律で禁止されています。
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工を行う
据え付け工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。
- 据え付け工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行う
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据え付け工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。
- 電気工事（アース工事を含む）は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- アースを必ず取り付ける
法律によるD種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
- 据え付け作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける
冷媒配管が取り付けられておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。

注意

- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。
- 据え付け作業のときは手袋（※）を着用する
着用しないと部品などにより、けがをする原因になります。（※軍手などの厚手の手袋）

エアコンの据え付けについて

このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系R410A冷媒を採用しています。

- R410A冷媒は従来の冷媒に比べ圧力が約1.6倍高くなり、水分・酸化皮膜・油脂などの不純物の影響を受けやすくなります。また、R410A冷媒の採用に伴い冷凍機油も変更しており、据え付け工事のときに水分・ゴミ・従来の冷媒や冷凍機油などがR410A冷媒エアコンの冷凍サイクル内に混入しないよう注意が必要です。
- 冷媒や冷凍機油の混入を防ぐため、本体チャージ口や据え付けツールの接続部分のサイズを従来冷媒用と違えており、下記のR410A冷媒用専用ツールが必要です。
- 接続配管はクリーンな新品の配管部材を使用し、水分・ゴミを混入させないように施工してください。
- 既設配管を流用する場合は、室外機に付属の据付説明書に従ってください。

必要器材および取り扱い上の注意点

据え付け工事を行うために、下表に示す工具・器材を準備する必要があります。

これらの中で新規に準備する工具・器材は、必ず専用品としてください。

記号の説明 ○：新規に準備（R410A専用としてR22・R407Cと使い分けが必要） △：従来工具を流用可

使用する機器	用途	工具・器材の使い分け
ゲージマニホールド	真空引き冷媒充填	○新規に準備、R410A専用
チャージングホース	および運転チェック	○新規に準備、R410A専用
チャージングシリンダー	冷媒充填	使用不可（冷媒充填ハカリによること）
ガス漏れ検知器	ガス漏れチェック	○新規に準備
真空ポンプ	真空乾燥	逆流防止アダプタを取り付ければ使用可
逆流防止付き真空ポンプ	真空乾燥	△ R22（現行品）
フレアツール	配管のフレア加工	△寸法の調整で使用可
ベンダー	配管の曲げ加工	△ R22（現行品）
冷媒回収機	冷媒の回収	○ R410A専用
トルクレンチ	フレアナットの締め付け	○φ 12.7, φ 15.9用は専用
パイプカッタ	配管の切断	△ R22（現行品）
冷媒ポンベ	冷媒充填	○ R410A専用 識別：冷媒名記載
溶接機・素素ボンベ	配管の溶接	△ R22（現行品）
冷媒充填ハカリ	冷媒充填	△ R22（現行品）

冷媒配管について

このエアコンの据え付けには、R410A冷媒対応のフレア方式配管キットを使用してください。

■R410A冷媒用配管キットを使用する場合

R410A冷媒エアコンの発売に伴い、エアコンの据え付けに使用する配管キットには、配管の梱包箱に冷媒種・対応冷媒名・配管肉厚が表示されています。このエアコンの据え付けには、必ず、

冷媒種：2種、対応冷媒名：R410A

と表示されている配管を使用してください。（適用冷媒種は、配管の断熱材被覆にも約1mごとに記号化して表示してあります。この表示が「㊟」のものを使用してください）

また、フレア加工、フレアナットもR410A冷媒用のものが必要ですが、この表示のある冷媒配管キットでフレアナットが付き、フレア加工してあるものは、そのまま使用できます。

■R410A冷媒用配管キットを使用しない場合

- 従来の配管キットを使用する場合
 - 適用冷媒種の表示のない従来の配管キットを使用する場合は、必ず、配管肉厚がφ6.4, φ9.5, φ12.7は0.8mm、φ15.9は1.0mmのものを使用してください。

従来の配管キットで、配管肉厚が上記以下の薄肉配管は、耐圧強度が不足しますので絶対に使用しないでください。

2. 一般の銅管を使用する場合

- 銅管はJIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220タイプで、内部の付着油量40mg/10m以下、配管肉厚はφ6.4, φ9.5, φ12.7は0.8mm、φ15.9は1.0mmのものを使用してください。上記以外の薄肉配管は、絶対に使用しないでください。

3. フレアナットおよびフレア加工

- フレアナット・フレア加工も従来冷媒用と異なります。
フレアナットはエアコン本体付属のもの、またはR410A用を使用してください。
- フレア加工は『冷媒配管の接続』の部分をよく読み、加工してください。

据付場所の選定

⚠ 注意

可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。



エアコンの吹出口は火災報知器より 1.5m 以上離して設置する
火災発生時に火災報知器の作動が遅れる、または検出できない場合があります。



室内ユニットは冷・温風がムラなく循環する場所を選んでください。

次のような場所はさけてください。

- 塩分（海岸地区）の多い場所
- 硫化ガス（温泉地区）の多い場所（銅管、ろう付け部が腐食する恐れがあります）
- 油を多量に使用する中華料理店などの調理場や、工場の機械設備の周辺（油が室内ユニットの熱交換器や樹脂部品等に付着して、能力の低下・霧吹きや露飛びの発生、樹脂部品の变形や破損の原因になります。）
- 吹き出しの気流を乱す換気口や照明器具などの障害物が近くにない場所（気流の乱れにより、能力低下や機器の停止の恐れがあります。）
- 特殊用途（食品・動植物・精密機器・美術品の保存など）では使用しないこと。（保存物の品質等に損害の恐れがあります。）
- 金属粉などの粉塵が発生する場所には据え付けしないでください。金属粉などがエアコン内部に付着・堆積すると自然発熱することがあり、火災の原因になります。

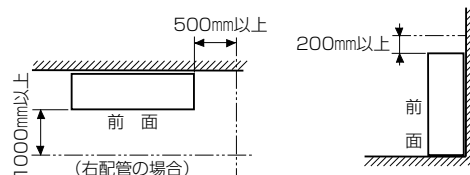
- 高周波の発生する機器（インバータ機器、自家発電機、医療機器、通信機器）がある場所（エアコンの誤動作や制御の異常やそれら機器へのノイズによる弊害が生じる恐れがあります。）
 - 据え付けた下に、濡れては困るものがある場所（湿度 80% 以上のときやドレン口が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。）
 - ワイヤレスタイプの場合、インバータタイプの蛍光灯がある部屋、また直射日光があたる場所（ワイヤレスリモコンの信号を受け付けられないことがあります）
 - 有機溶剤を使用している場所
 - 液化炭酸冷却等化学プラントには使用できません。
 - ドアまたは窓の近くで高湿度の外気と接する恐れのある場所（結露する恐れがあります）
 - 特殊なスプレーを頻繁に使用する場所
- 建物の金属部とエアコン金属部との電気絶縁は電気設備技術基準（省令第 59 条、基準の解釈第 167 条 3 項）に従ってください。

お願い

高湿度条件でご使用される場合は、室内ユニット本体の側面および背面へ断熱材を貼り付けてください。

据付スペース

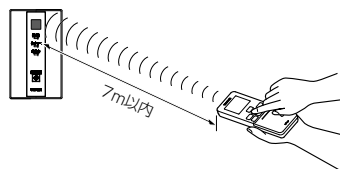
据え付け・サービスに必要なスペースを確保してください。



ワイヤレスタイプの場合

リモコンを操作する位置と据付場所を決めてください。（ワイヤレスタイプの受信距離は約 7m です。この距離は目安です。乾電池の容量などにより、若干前後します。）

- 誤作動防止のため、蛍光灯や直射日光の障害を受けない場所を選定してください。
- 同じ部屋に 2 台以上（6 台まで）のワイヤレスタイプの室内ユニットを設置することができます。



室内ユニットの据え付け

⚠ 警告

据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。



台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け
工事を行う
据え付け工事に不備があると、転倒・落下など
による事故の原因になります。



ユニットの据付

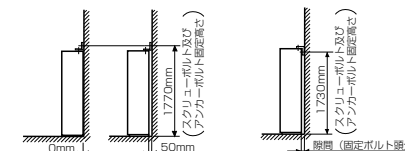
転倒防止は必ず実施!!

お願い

ユニットを据付ける場合、次のことを守ってください。

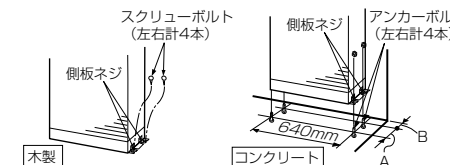
1. このユニットは薄形状をしていますので、転倒事故を未然に防止する意味から、必ず、壁面と床面の両方に、それぞれ転倒防止措置を実施し、ユニットをしっかりと固定してください。固定しないと転倒する可能性があり危険です。
2. ユニットの所定の位置に搬入し、セットしたら、安全のため、ただちにユニットを壁面と床面に固定してください。

また金具は反転せずに下図のようにユニットを固定することも可能です。（その場合、ユニットと壁との隙間は固定ボルトの頭分とする必要があります。）



室内ユニット床面固定の場合

付属の床面固定金具を使用し、ユニットの左右下部を床面へ固定してください。ユニットへの固定は側板ネジを使用し、床面への固定はスクリーボルトまたはアンカーボルトにて左右各 2 箇所、計 4 箇所実施してください。



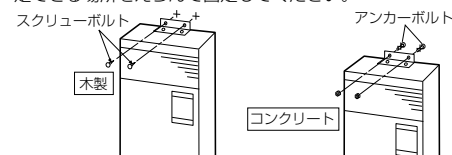
	A(mm)	B(mm)
AP45形～AP80形	88	42～92
AP112形～AP160形	258	52～102

ユニット固定ボルト

- 壁面及び床面が木製の場合（AP45形～AP80形）
輸送用に使用しているスクリーボルト（M8×L50）4本と本体内部に付属している2本を使用してください。
- 壁面及び床面が木製の場合（AP112形～AP160形）
輸送用に使用しているスクリーボルト（M8×L50）2本と本体内部に付属している4本を使用してください。
- 上記以外の場合
市販のアンカーボルト（M8×L50以上）などを6本現地調達してください。

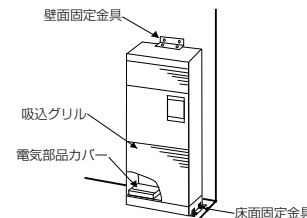
室内ユニット壁面固定の場合

付属の壁面固定金具をユニット上面にて反転させて使用してください。壁面への固定は付属のスクリーボルトまたはアンカーボルト等にて2箇所実施してください。金具には壁面への固定穴及びユニットへの固定穴が多数開いていますので、金具を左右方向にずらし、しっかりと固定できる場所をえらんで固定してください。



壁面固定金具のユニットへの固定穴は長穴となっていますので、ユニットと壁との隙間は 0～50mm まで、どの位置でも固定できます。

ユニット固定図（例）



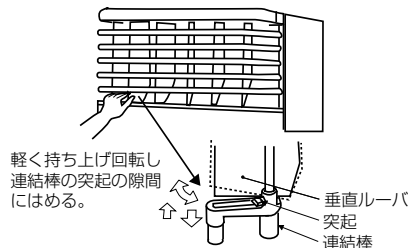
お願い

1. 室内ユニット据付の床面及び壁面が木製以外の場合、アンカーボルト（M8×L50以上）が 6 本必要になります。現地に調達してください。別売の室内ユニット置台にはアンカーボルトが付属しています。
2. 別売の室内ユニット置台を使用する場合は、床面への固定方法が異なります。その場合は、室内ユニット置台の説明書を参照して、必ず転倒防止措置を実施してください。

1 室内ユニットの据え付け (つづき)

垂直ルーバーの向き

オートターンルーバー（垂直ルーバー）の向きが輸送中に変わっていることがあります。下図のように垂直ルーバーを軽く持ち上げて、垂直ルーバーの下についているプラスチック製の連結棒の向きに合わせて回転させ、連結棒の突起の隙間にはめて、垂直ルーバーの向きをお客様の好みの方向にそろえてください。



リモコン（別売品）の取り付け

ワイヤードリモコンの取り付け方法は、室内ユニットに添付の取付説明書又はリモコンに付属の取付説明書に従ってください。

ワイヤレスリモコンの取り付け方法は、リモコンに付属の取付説明書に従ってください。

- リモコンコードは冷媒配管またはドレン配管とともに取り出してください。また、リモコンコードは必ず冷媒配管およびドレン配管の上側を通すようにしてください。
- 直射日光の当たる所やストーブ等の近くに置かないでください。
- リモコンを操作して室内ユニットが確実に受信することを確認してから取り付けてください。（ワイヤレスタイプ）
- テレビやステレオ等の機器から1m以上離してください。（映像の乱れや雑音が入ることがあります）（ワイヤレスタイプ）

2 ドレン配管

△ 注意

ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないよう断熱する配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをぬらす原因になることがあります。

ノックアウト穴の開き後は、バリ処理を必ずする

ノックアウト穴の開き口部にはバリがあるため、触れるとケガの原因になります。

ドレンホースの引き回しは据付説明書に従う

工事に不備があるとドレンスライム発生や水漏れなどの原因になります。



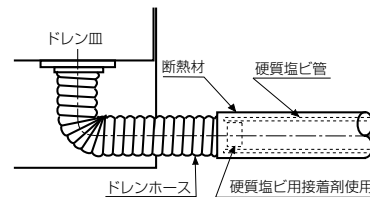
お願い

- ドレンは自然排水ですのでドレン配管および機内のドレンホースは下り勾配（1/100以上）となるようにして、途中にトラップや山越えを作らないよう施工してください。
- ドレンホースとドレン配管は必ず機外で接続し、固定してください。
- ノックアウト部開口時、配線・配管およびドレンホースとのすき間が生じる場合にはパテなどで埋めてください。
- ドレン配管の横引きは20m（高低差は含みません）以下にしてください。また、ドレン配管が長い場合には、途中に配管を支える支持金具を設置して配管の波打ちを防止してください。エア抜き管は絶対に付けないでください。ドレンが吹き出る場合があります。
- 集合配管にする場合はVP30程度のもので下り勾配が1/100以上になるよう施工してください。冷媒配管と同じようにドレン配管にも十分な断熱処理を施してください。（発泡ポリエチレンフォーム厚さ6mm以上）
- 配管が完成しましたら、吸込グリルをはずし、ドレン皿へ水を流して排水確認とドレンホース接続部からの水漏れ確認を行ってください。
- 排水確認が完了したら吸込グリルをもとどおり取り付けてください。
- 防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材（パテ等）で埋めてください。

配管材料・断熱材

配管工事および断熱処理には下記材料を現地手配してください。

配管材料	硬質塩ビ管 呼び径（内径）φ20mm
断熱材	発泡ポリエチレンフォーム 厚さ6mm



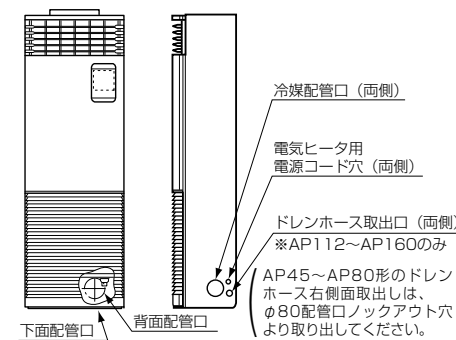
お願い

- 硬質塩ビ管の接続には、塩ビ管接着剤を使用し、水漏れのないよう確実に行ってください。
- 接着剤の乾燥硬化（接着剤の取扱説明書を読んでください。）するまでに時間を要しますので、その間ドレン配管との接続部に力が加わらないようにしてください。

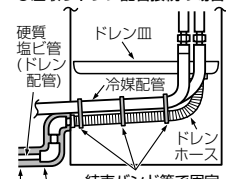
配管の方法

ドレン配管、冷媒配管は据付場所に依りて左、右、背面、下面のいずれの場合もできます。ただし、ドレン配管左取りの場合は、冷媒配管が左取り出し時のみとし、ドレンホースを結束バンド等で冷媒配管に固定し勾配を1/100以上キープするように施工を行ってください。この時、ドレンホースの根元に負担をかけないように注意してください。

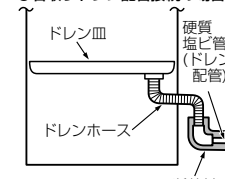
- ドレンホース、冷媒配管の室内ユニット内の引き回し時、電気部品箱の上を通らないように工事してください。配管の結露水が電気部品箱に侵入し故障の原因になります。（※AP45～AP80形は除く）
- AP45～AP80形のドレンホース、冷媒配管の室内ユニット内の引き回し時、電気部品箱と配管とのすき間が5mm以上あくように工事してください。5mm以上のすき間がないと防滴板がはずれず電気部品箱が取り出せなくなります。



●左取りドレン配管接続の場合



●右取りドレン配管接続の場合



結束バンド等で固定
断熱材 ドレンホースがたれ下がりトラップができないよう結束バンド等で冷媒配管に固定してください。（3カ所くらい固定）
なお、固定の際は、ドレンホースおよび冷媒配管（断熱材）をきつく締め付けないように注意願います。
※現地で、機外でドレン配管を接続し固定してください。
（左取りも右取りの場合もドレンホースの勾配を1/100以上キープしてください。）

3 冷媒配管

警告

据え付け工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行う
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。



据え付け工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。



お願い

冷媒配管が長い場合は、2.5～3m間隔で支持金具を設け固定してください。配管を固定しないと異常音が発生する場合があります。
フレアナットは室内ユニット本体付属のもの、またはR410A用を必ず使用してください。

配管許容長さおよび許容落差

室外機により異なります。詳細は室外機に付属の据付説明書に従ってください。

配管材料およびサイズ

配管材料	空調用リン脱酸銅継目無管 (C1220T-0)		
機種名	MMF-	AP45 AP56形	AP71 AP160形
配管サイズ (mm)	ガス側	12.7	15.9
	液側	6.4	9.5

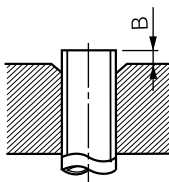
冷媒配管の接続

●フレア加工

- パイプカッターで配管を切断します。
バリは必ず取ってください。(ガス漏れの原因となります)
- フレアナットを配管に挿入後、フレア加工をします。
フレアナットは本体付属のもの、またはR410A用のものでご使用ください。
R410A用のフレア加工寸法は、従来のR22用とは異なります。R410A用に新規に製作されたフレアツールをおすすめしますが、従来のツールでも下表の通り銅管の出し代を調整すれば、使用できます。

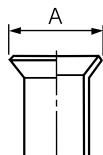
●フレア加工の銅管出し代：B（単位：mm）

配管外径	リジッド（クラッチ式）の場合		インベリアル（ウイングナット）の場合
	R410A用ツール使用時	従来ツール使用時	
6.4	0～0.5	1.0～1.5	1.5～2.0
9.5			2.0～2.5
12.7			
15.9			



●フレア部加工寸法：A（単位：mm）

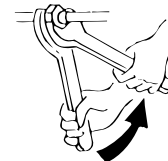
配管外径	A $\pm 0_{-0.4}$
6.4	9.1
9.5	13.2
12.7	16.6
15.9	19.7



※従来のフレアツールを使ってR410A用のフレア加工をする場合は、R22のときより約0.5mm多めに上げば規定のフレア寸法に加工できます。出し代の寸法調整は銅管ゲージを使用すると便利です。

フレア加工後、加工部に傷、切粉付着、変形、段差、扁平などが無いことを確認してください。

- 封入ガスは大気圧しか封入されていないので、フレアナットをはずしたとき「プシュー」という音がしますが異常ではありません。
- 室内ユニットの配管接続は必ずダブルスバナにて行ってください。



ダブルスバナ作業

- 締付トルクは下表によってください。

接続配管外径(mm)	締付トルク(N・m)
6.4	14～18
9.5	34～42
12.7	49～61
15.9	68～82

フレア面への冷凍機油の塗布は行わないでください。

●フレア配管接続部の締付トルク

R410AはR22に比べ、圧力が約1.6倍と高くなります。従って、室内・室外の各ユニットを接続するフレア配管接続部は、トルクレンチを使用して規定の締付トルクで確実に締め付けてください。接続に不備があるとガスリークだけでなく、冷凍サイクル故障の原因にもなります。

お願い

トルクをかけ過ぎますと、据付条件によってはナットが割れる場合があります。

気密試験・エアパージ等

真空ポンプを使用して、室外機バルブのチャージポートから真空引きを行います。
詳細は室外機に付属の据付説明書に従ってください。
●室外機に封入された冷媒を使ったエアパージは絶対にしないでください。

お願い

チャージホースなどのツールは、R410A専用に製作されたものを使用してください。
気密試験・真空引きが完了するまで室内ユニットに通電しないでください。
(通電しますと内蔵している電子膨張弁が全閉になり、真空引き完了までの時間が長くなります。)

バルブを全開に

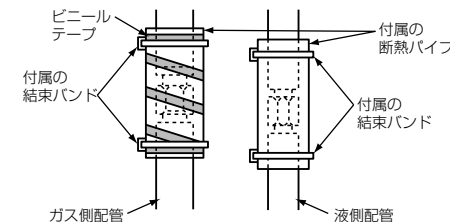
所定の室外機のバルブを全開にします。

断熱処理

お願い

- ガス側配管の断熱材は120℃以上の耐熱性のものを必ず使用してください。
- 室内ユニット側の配管接続部には、付属の断熱材を用いて隙間なく確実に断熱してください。断熱パイプは接続前に配管側へとおしてください。

- 配管の断熱は液側・ガス側の両方を別々に行なってください。
- 冷房時、液側・ガス側ともに低温になりますので結露防止のため必ず液側・ガス側とも断熱してください。
- 室内ユニット内部の断熱は、下図の位置まで確実に行ってください。



4 電気配線

6

警告

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する

接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。

電気工事（アース工事を含む）は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する

電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

アースを必ず取り付ける

法律によるD種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。

注意

漏電遮断器を取り付ける

漏電遮断器が取り付けられていないと感電の原因になることがあります。

お願い

- 電源配線は所轄の電力会社の規定および電気設備基準に従って行ってください。
- 室外機の電源は各室外機の据付説明書に従って配線してください。
- 通信線用端子板(A)、(B)、(11)、(12)などには200V電源を絶対に接続しないでください。(故障します)
- 電気配線は配管の高温部に接触しないようにしてください。被覆が溶け事故の原因となる場合があります。
- 配線は端子板に接続した後、トラップをとり、ケーブルクランプで固定してください。
- 室内外渡り線系統と冷媒配管系統は同一系統に納めてください。
- 冷媒配管の真空引きが終るまで、室内ユニットに通电しないでください。

電源仕様

配線およびリモコン線は現地手配となります。

電源仕様は下表に従ってください。容量が小さいと過熱・焼損等の発生原因となり危険です。

室外機の電源容量および電源線の仕様は室外機に付属の据付説明書に従ってください。

項 目 機種名 MMF-		室内ユニット電源（※1）						通 信 線						ア ー ス 線
		電源		手元開閉器		電 源 配 線		室内外渡り線 （※2）		集中管理系配線 （※3）		リモコン配線 （※4）		
				容量	ヒューズ	20m以下	50m以下	本数	線 径	本数	線径	本数	線径	
室内 ユ ニ ッ ト	AP45形 ↓ AP160形	単相 200V 50/60Hz	15A	15A	ヨリ線 2mm ²	ヨリ線 3.5mm ²	2	(1000mまで) ヨリ線 1.25mm ² (2000mまで) ヨリ線 2.0mm ²	2	(1000mまで) ヨリ線 1.25mm ² (2000mまで) ヨリ線 2.0mm ²	2	ヨリ線 0.5 ～ 2.0mm ²	単線 φ1.6 mm	

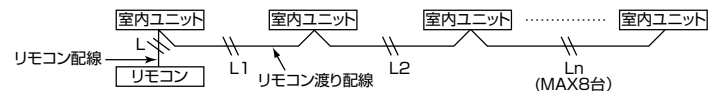
※記載の配線サイズは、最小サイズとなります。

室内ユニット電源 (※1)

- 室内ユニットの電源は室外機とは別に専用電源を設けてください。
- 同一室外機に接続した室内ユニットの電源および漏電遮断器、手元開閉器は共通にしてください。

リモコン配線とリモコン渡り配線 ※ご使用のリモコンによって異なります。

線種	RBC-AMT32の場合			省エネneoリモコンの場合		
	リモコン線 (通信線) と AC100V/200V の配線と直接接続させたり、同一電線管に収めることができません。ノイズ等により制御系統に異常が生じる恐れがあります。			ワイヤレスとの2リモコン		
リモコン配線とリモコン渡り配線の総配線長 (L+L1+L2+...Ln)	1リモコン 500mまで	2リモコン 500mまで	ワイヤレスとの2リモコン 400mまで	1リモコン 500mまで	2リモコン 300mまで	ワイヤレスとの2リモコン 400mまで
リモコン渡り配線の総配線長 (L1+L2+...Ln)	200mまで					



配線接続

お願い

- リモコン配線には、極性がありませんので、室内ユニット端子板A,Bへの接続は逆になってもかまいません。
- 配線は、室内ユニットの配線接続口のプッシングを必ず通してください。
- リモコンの回路は低電圧回路です。内線規程3102-7の小勢力回路の規定に従ってください。

配線は必ず端子番号を合わせて接続してください。接続を正しく行いませんと故障の原因となります。

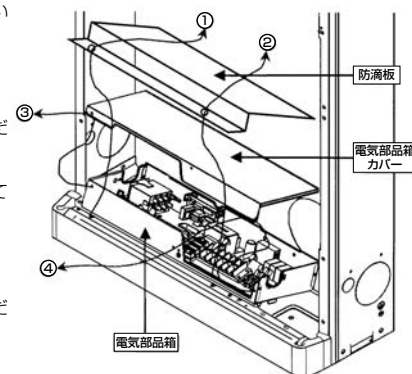
電気部品箱カバー取りはずしかた

- AP45～AP80形
電気部品箱手前のねじ①、②をはずし、防滴カバーをはずしてください。電気部品箱正面のねじ③、④をはずし、電気部品箱カバーをはずしてください。
- AP112～AP160形
電気部品箱正面のねじ③、④をはずし、電気部品箱カバーをはずしてください。

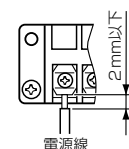
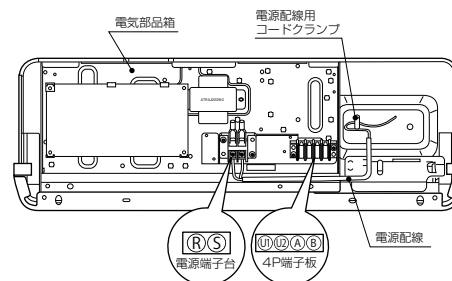
※防滴板は、AP45～AP80形だけにあります。

室内ユニット電気部品箱への配線

- 配線は配管取り用穴（ノックアウト穴）より引き込みます。
- 配線は図のようにトラップをとり、コードクランプで固定してください。
- 端子板の接続部にテンションをかけないこと
- 電気部品箱カバーと防滴板を必ず取り付けてください。



端子板に接続する配線は、下図の寸法を確保してください。



5 応用制御 (つづき)

フィルタサイン点灯時間の変更

据え付け条件に応じてフィルタサイン（フィルタ清掃のおしらせ）が点灯する時間を変更することができます。

基本操作手順 (①→②→③→④→⑤→⑥) に従って操作します。

- 手順③の項目コードは [01] を指定します。
- 手順④の設定データは、下表から設定するフィルタサイン点灯時間の設定データを選択します。

設定データ	0000	0001	0002	0003	0004
フィルタサイン点灯時間	なし	150H (出荷時)	2500H	5000H	10000H

グループ制御

リモコン1個で最大8台までグループ制御できます。

- 個々の系統（同一冷媒系統）システムの配線手順及び配線は、本紙の『4.電気配線』に従い行ってください。

- グループ室内間の配線は次の手順で行います。

リモコンを接続した室内ユニットのリモコン端子板（A・B）から他の室内ユニットのリモコン端子板（A・B）に、リモコン渡り配線をそれぞれに渡らせて接続します。（極性はありません）

- アドレス設定は、室外機に付属している据付説明書にしたがって設定してください。

暖房効果をよりよくするために

室内ユニットの据付場所、部屋の構造などでどうしても暖まりにくい場合には、暖房の検出温度を上げることができます。また、サーキュレータなどを併用し、天井付近の暖かい空気を循環させてください。

基本操作手順 (①→②→③→④→⑤→⑥) に従って操作します。

- 手順③の項目コードは [06] を指定します。

- 手順④の設定データは、下表から設定する検出温度シフト値の設定データを選択します。

設定データ	0000	0001	0002	0003	0004	0005	0006
検出温度シフト値	シフト (出荷時)	+1℃	+2℃	+3℃	+4℃	+5℃	+6℃

リモコンセンサー


通常は室内ユニットの温度センサーが室温を感知しますが、リモコン周辺の温度を感知させるときに設定します。

基本操作手順 (①→②→③→④→⑤→⑥) に従って操作します。

- 手順③の項目コードは [32] を指定します。

- 手順④の設定データは、下表の設定データを選択します。

設定データ	0000	0001
リモコンセンサー	使用しない (出荷時)	使用する

が点滅する場合、リモコンセンサーの故障です。リモコンセンサーを使用しない（設定データ：0000）にするかリモコンを交換してください。

6 試運転

試運転の前に

- 電源を入れる前に、次のことを行ってください。

- (1) 電源端子板とアース間を500Vメガーで計って1MΩ以上あることを確認します。1MΩ未満のときは運転しないでください。
- (2) 室外機全てのバルブを全開にしているか確認してください。

- 起動時のコンプレッサ保護のために、電源を入れ12時間以上通電してください。

- 試運転時に必ずドレン排水の確認を行なってください。

- 運転の前に必ずアドレス設定を行う必要があります。アドレス設定は、室外機に付属している据付説明書に従ってください。

試運転の方法

- 室内ユニット単独で送風運転を行いたい場合は一度電源を切り、基板上にあるCN072を短絡して電源を再投入してください。（運転モードを送風にしてから運転してください。）

なお、この方法を用いて試運転した場合は必ずCN072の短絡を解除することを忘れないでください。

- リモコンにて、通常操作で運転確認を行ってください。運転の手順は、付属の取扱説明書に従ってください。

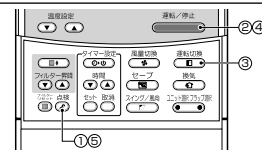
室温がサーモOFFするような条件では、以下の手順にて強制試運転ができます。

強制試運転は、連続運転を防止するため、運転を60分経過すると試運転を解除し、通常運転に戻ります。

注) 強制試運転は、機器に無理が掛かりますので、試運転以外では使用しないでください。

ワイヤードリモコンの場合

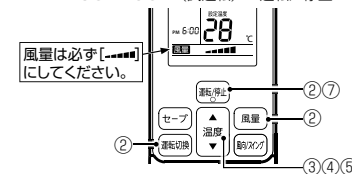
手順	操 作 内 容
①	「点検」ボタンを4秒以上押すと、表示部に〔試運転〕と表示され、試運転モードとなります。 (試運転中は表示部に〔試運転〕と表示されています。)
②	「運転／停止」ボタンを押します。
③	「運転切換」ボタンで、運転モードを〔冷房〕か〔暖房〕にしてください。 ●〔冷房〕／〔暖房〕モード以外で使用しないでください。 ●試運転中は、温度調節はできません。 ●異常検出は、通常通り行います。
④	試運転を終了したら、「運転／停止」ボタンを押して運転を停止してください。 (表示部の表示が手順①と同じになります。)
⑤	「点検」ボタンを押し、試運転モードを解除してください。(表示部の〔試運転〕表示が消え通常停止状態となります。)



ワイヤレスリモコンの場合

手順	操 作 内 容
①	エアコンの電源を投入してください。 据付後初回電源投入時は5分間、2回目以降電源投入時は1分間は運転操作を受け付けません。所定時間経過後に試運転を実施してください。
②	リモコンの「運転／停止」ボタンを押し、「運転切換」ボタンで運転モードを〔冷房〕か〔暖房〕に、「風量」ボタンで風量を〔...風量〕にしてください。
③	冷房試運転の場合 「温度」ボタンで〔18℃〕にしてください。 暖房試運転の場合 「温度」ボタンで〔29℃〕にしてください。
④	“ビッ”という受信音確認後直ちに、「温度」ボタンを押して〔19℃〕にしてください。
⑤	“ビッ”という受信音確認後直ちに、「温度」ボタンを押して〔18℃〕にしてください。
⑥	さらに手順④→⑤→④→⑤を実施してください。 約10秒程度でワイヤレス受信部の表示ランプ「運転」(緑)・「タイマー」(緑)・「準備中」(黄)がすべて点滅し、運転します。もしランプが点滅しない場合には②以降の操作をやりなおしてください。
⑦	試運転終了したら、「運転／停止」ボタンを押して運転を停止してください。

〈ワイヤレスリモコンからの試運転操作の概要〉
冷房試運転：運転／停止→18℃→19℃→18℃→19℃→18℃→19℃→18℃→(試運転)→運転／停止
暖房試運転：運転／停止→29℃→28℃→29℃→28℃→29℃→28℃→29℃→28℃→29℃→(試運転)→運転／停止



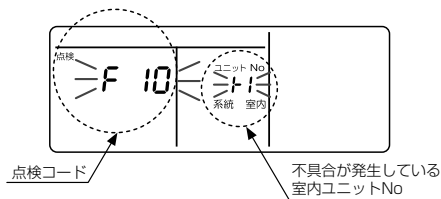
7 故障診断

確認と点検

エアコンに不具合が発生した場合、リモコン表示部に点検コードと室内ユニットNoが表示されます。

点検コードは、運転中にのみ表示されます。

表示が消えてしまった場合は、下記の『故障履歴の確認』に従って操作し確認してください。

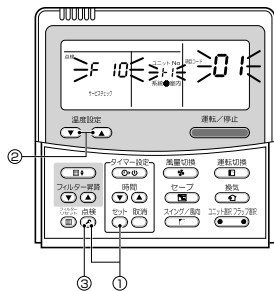


故障履歴の確認

エアコンに不具合が発生した場合、以下の手順で故障履歴を確認できます。(故障履歴は4つまでメモリされます。)

運転および停止状態のどちらからでも確認できます。

手順	操作内容
①	「セット」＋「点検」ボタンを4秒以上同時に押すと、しばらくして表示部が図のように表示されます。 表示部に「サービスチェック」が表示されると、故障履歴モードに入ったことを示します。 <ul style="list-style-type: none">・項目コードに、[01：故障履歴の順番]が表示されます。・点検に[点検コード]が表示されます。・ユニットNoに[不具合が発生している室内ユニットNo]が表示されます。
②	温度設定の「▼／▲」ボタンを押すごとに、メモリされている故障履歴が順番に表示されます。 項目コードは、項目コード [01] (最新) → 項目コード [04] (一番古い) を示します。 <div>お願い [取消] ボタンを押すと、室内ユニットの故障履歴が全て消去されますので、押さないでください。</div>
③	確認できたら「点検」ボタンを押して通常表示に戻ります。



点検の方法

リモコン（ワイヤードリモコン、集中コントローラー）および室外機のインターフェース基板には、点検コードを表示するための液晶ディスプレイ（リモコン）あるいは7セグメント表示（室外インターフェース基板上）が設けられており、これによって運転状況がわかります。この自己診断機能を用いて、エアコンの不具合または故障箇所の判定を行う方法を以下に示します。

点検コード一覧

点検する場所により、右表から点検内容を確認してください。

○リモコンから確認する場合…右表の「ワイヤードリモコン表示」から参照

○室外機から確認する場合…右表の「室外7セグメント表示」から参照

○ワイヤレスリモコンの室内ユニットから確認する場合…右表の「受信ユニット受光部ブロック表示」から参照

下表に、点検コード別の一覧を示します。

○：点灯、◇：点滅、●：消灯

交互：点滅LEDが2個あるときの点滅状態が交互 同時：点滅LEDが2個あるときの点滅状態が同時

ワイヤード リモコン 表示	点検コード		ワイヤレスリモコン 受信ユニット受光部 ブロック表示		点検コード名	判定機器
	室外7セグメント表示	補助コード	運転 タイマー 準備中	点滅		
E01	—	—	◇ ● ●		室内—リモコン間通信異常（リモコン側検出）	リモコン
E02	—	—	◇ ● ●		リモコン送信異常	リモコン
E03	—	—	◇ ● ●		室内—リモコン間通信異常（室内側検出）	室内
E04	—	—	● ● ◇		室内外通信回路異常（室内側検出）	室内
E06	E06	正常受信室内台数	● ● ◇		室内台数減少	I/F
—	E07	—	● ● ◇		室内外通信回路異常（室外側検出）	I/F
E08	E08	重複室内アドレス	◇ ● ●		室内アドレス重複	室内・I/F
E09	—	—	◇ ● ●		リモコン親重複	リモコン
E10	—	—	◇ ● ●		室内MCU間通信異常	室内
E12	E12	01：室内外通信 02：室外間通信	◇ ● ●		自動アドレス開始エラー	I/F
E15	E15	—	● ● ◇		自動アドレス中室内不在	I/F
E16	E16	00：容量オーバー 01～：接続台数	● ● ◇		室内接続台数・容量オーバー	I/F
E18	—	—	◇ ● ●		室内親子間通信異常	室内
E19	E19	00：センターなし 02：センター2台以上	● ● ◇		センター室外台数異常	I/F
E20	E20	01：他系統室外接続 02：他系統室内接続	● ● ◇		自動アドレス中他系統接続	I/F
E21	E21	02：親機なし 00：親機重複台数	● ● ◇		蓄熱ユニット親機台数異常	I/F
E22	E22	—	● ● ◇		蓄熱ユニット台数減少	I/F
E23	E23	—	● ● ◇		室外間通信送信異常	I/F
E25	E25	—	● ● ◇		蓄熱ユニット台数異常（受信不良）	I/F
E26	E26	正常受信室外台数	● ● ◇		ターミナル室外アドレス設定重複	I/F
E28	E28	検出室外ユニット番号	● ● ◇		ターミナル室外異常	I/F
E31	E31	(SMMSのとき) 01：A3-IPDU 1 不良 02：A3-IPDU 2 不良 03：A3-IPDU 1,2 不良 04：ファンIPDU 不良 05：A3-IPDU+ ファンIPDU不良 06：A3-IPDU 2+ ファンIPDU不良 07：全IPDU 不良 (SMMS-のとき) A3-IPDU ファン 1 2 3 IPDU 01 ○ ○ ○ 02 ○ ○ ○ 03 ○ ○ ○ 04 ○ ○ ○ 05 ○ ○ ○ 06 ○ ○ ○ 07 ○ ○ ○ 08 ○ ○ ○ 09 ○ ○ ○ 0A ○ ○ ○ 0B ○ ○ ○ 0C ○ ○ ○ 0D ○ ○ ○ 0E ○ ○ ○ 0F ○ ○ ○ ○印IPDU異常箇所	● ● ◇		IPDU通信異常	I/F
F01	—	—	◇ ◇ ●	交互	室内TC1センサ異常	室内
F02	—	—	◇ ◇ ●	交互	室内TC2センサ異常	室内
F03	—	—	◇ ◇ ●	交互	室内TC1センサ異常	室内
F04	F04	—	◇ ◇ ○	交互	TD1センサ異常	I/F
F05	F05	—	◇ ◇ ○	交互	TD2センサ異常	I/F
F06	F06	(SMMSのとき) (SMMS-のとき) 01：TE1 02：TE2	◇ ◇ ○	交互	TE1センサ異常 TE1,TE2センサ異常	I/F
F07	F07	—	◇ ◇ ○	交互	TLセンサ異常	I/F
F08	F08	—	◇ ◇ ○	交互	TOセンサ異常	I/F

7 故障診断 (つづき)

ワイヤード リモコン 表示	点検コード		ワイヤレスリモコン		点検コード名	判定機器
	室外7セグメント表示		受信ユニット受光部 ブロック表示			
	表示	補助コード	運転 タイマー 手動中	点滅		
F10	—	—	☆ ☆ ●	交互	室内TAセンサ異常	室内
F11	—	—	☆ ☆ ●	交互	室内TFセンサ異常	室内
F12	F12	—	☆ ☆ ○	交互	TS1センサ異常	I/F
F13	F13	01：圧縮機1側 02：圧縮機2側 03：圧縮機3側	☆ ☆ ○	交互	THセンサ異常	IPDU
F15	F15	—	☆ ☆ ○	交互	室外温度センサ誤配線 (TE1, TL)	I/F
F16	F16	—	☆ ☆ ○	交互	室外圧力センサ誤配線 (Pd, Ps)	I/F
F22	F22	—	☆ ☆ ○	交互	TD3異常	I/F
F23	F23	—	☆ ☆ ○	交互	Psセンサ異常	I/F
F24	F24	—	☆ ☆ ○	交互	Pdセンサ異常	I/F
F29	—	—	☆ ☆ ●	同時	室内その他の異常	室内
F31	F31	—	☆ ☆ ○	同時	室外EEPROM異常	I/F
H01	H01	01：圧縮機1側 02：圧縮機2側 03：圧縮機3側	● ☆ ●		圧縮機ブレークダウン	IPDU
H02	H02	01：圧縮機1側 02：圧縮機2側 03：圧縮機3側	● ☆ ●		圧縮機異常（ロック）	IPDU
H03	H03	01：圧縮機1側 02：圧縮機2側 03：圧縮機3側	● ☆ ●		電流出回路系異常	IPDU
H04	H04	—	● ☆ ●		圧縮機1ケースサーモ動作	I/F
H05	H05	—	● ☆ ●		TD1誤接続	I/F
H06	H06	—	● ☆ ●		低圧保護動作	I/F
H07	H07	—	● ☆ ●		油面低下検出保護	I/F
H08	H08	01：TK1センサ異常 02：TK2センサ異常 03：TK3センサ異常 04：TK4センサ異常 05：TK5センサ異常	● ☆ ●		油面検出用温度センサ異常	I/F
H14	H14	—	● ☆ ●		圧縮機2ケースサーモ動作	I/F
H15	H15	—	● ☆ ●		TD2誤接続	I/F
H16	H16	01：TK1油回路系異常 02：TK2油回路系異常 03：TK3油回路系異常 04：TK4油回路系異常 05：TK5油回路系異常	● ☆ ●		油面検出回路系異常	I/F
H25	H25	—	● ☆ ●		TD3誤接続	I/F
L03	—	—	☆ ● ☆	同時	室内親重複	室内
L04	L04	—	☆ ○ ☆	同時	室外系統アドレス重複	I/F
L05	—	—	☆ ● ☆	同時	優先室内重複（優先室内に表示）	I/F
L06	L06	優先室内ユニット台数	☆ ● ☆	同時	優先室内重複（優先室内以外に表示）	I/F
L07	—	—	☆ ● ☆	同時	個別室内にグループ線あり	室内
L08	L08	—	☆ ● ☆	同時	室内グループ/アドレス未設定	室内 I/F
L09	—	—	☆ ● ☆	同時	室内能力未設定	室内
L10	L10	—	☆ ○ ☆	同時	室外能力未設定	I/F
L17	L17	—	☆ ○ ☆	同時	室外機種不一致異常	I/F
L18	L18	—	☆ ○ ☆	同時	冷暖切替ユニット系異常	I/F
L20	—	—	☆ ○ ☆	同時	集中管理アドレス重複	AINET 室内
L26	L26	接続蓄熱ユニット台数	☆ ○ ☆	同時	蓄熱ユニット接続台数オーバー	I/F
L27	L27	接続蓄熱ユニット台数	☆ ○ ☆	同時	蓄熱ユニット接続台数異常	I/F
L28	L28	—	☆ ○ ☆	同時	室外接続台数オーバー	I/F
L29	L29	(SMMSのとき) 01：A3-IPDU1 不良 02：A3-IPDU2 不良 03：A3-IPDU1,2 不良 04：ファンIPDU1 不良 05：A3-IPDU1＋ ファンIPDU 不良 06：A3-IPDU2＋ ファンIPDU 不良 07：全IPDU 不良	☆ ○ ☆	同時	IPDU台数異常	I/F

ワイヤード リモコン 表示	点検コード		ワイヤレスリモコン		点検コード名	判定機器																																																			
	室外7セグメント表示		受信ユニット受光部 ブロック表示																																																						
	補助コード		運転 タイマー 手動中	点滅																																																					
L29	L29	(SMMS-Iのとき) <table border="1"><tr><td></td><td>A3-IPDU</td><td>ファン</td></tr><tr><td></td><td>1</td><td>2 3 IPDU</td></tr><tr><td>01</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>02</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>03</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>04</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>05</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>06</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>07</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>08</td><td></td><td></td></tr><tr><td>09</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>0A</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>0B</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>0C</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>0D</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>0E</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>0F</td><td>○</td><td>○</td></tr></table> ○印:IPDU異常箇所		A3-IPDU	ファン		1	2 3 IPDU	01	○		02		○	03	○	○	04		○	05		○	06		○	07	○	○	08			09	○		0A		○	0B	○		0C		○	0D	○	○	0E		○	0F	○	○	☀ ● ☀	同時	IPDU台数異常	I/F
	A3-IPDU	ファン																																																							
	1	2 3 IPDU																																																							
01	○																																																								
02		○																																																							
03	○	○																																																							
04		○																																																							
05		○																																																							
06		○																																																							
07	○	○																																																							
08																																																									
09	○																																																								
0A		○																																																							
0B	○																																																								
0C		○																																																							
0D	○	○																																																							
0E		○																																																							
0F	○	○																																																							
L30	L30	検出室内アドレス	☀ ○ ☀	同時	室内外部インターロック	室内																																																			
—	L31	—	—	—	膨張/OC異常	I/F																																																			
P01	—	—	● ☀ ☀	交互	室内ファンモータ異常	室内																																																			
P03	P03	—	☀ ● ☀	交互	吐出温度TD1異常	I/F																																																			
P04	P04	01:圧縮機1側 02:圧縮機2側 03:圧縮機3側	☀ ● ☀	交互	高圧SW系動作	IPDU																																																			
P05	P05	00:欠相検出 01:圧縮機1側 02:圧縮機2側 03:圧縮機3側	☀ ● ☀	交互	欠相異常・停電異常 インバータ直流電圧(Vdc)異常	I/F																																																			
P07	P07	01:圧縮機1側 02:圧縮機2側 03:圧縮機3側	☀ ● ☀	交互	ヒートシンク過熱異常	IPDU I/F																																																			
P09	P09	検出蓄熱アドレス	● ☀ ☀	交互	蓄熱ユニット漏水異常	蓄熱																																																			
P10	P10	検出室内アドレス	● ☀ ☀	交互	室内溢水異常	室内																																																			
P12	—	—	● ☀ ☀	交互	室内ファンモータ異常	室内																																																			
P13	P13	—	● ☀ ☀	交互	室外液/バック検出異常	I/F																																																			
P15	P15	01:TS条件 02:TD条件	☀ ● ☀	交互	ガスリーク検出	I/F																																																			
P17	P17	—	☀ ● ☀	交互	吐出温度TD2異常	I/F																																																			
P18	P18	—	☀ ● ☀	交互	吐出温度TD3異常	I/F																																																			
P19	P19	検出室外ユニット番号	☀ ● ☀	交互	四方弁反転異常	I/F																																																			
P20	P20	—	☀ ● ☀	交互	高圧保護動作	I/F																																																			
P22	P22	0*: IGBT回路 1*: 位置検出回路異常 3*: モータロック異常 4*: モータ電流検出 C*: THセンサ温度異常 D*: THセンサ異常 E*: インバータ直流電圧異常 (室外ファン) 注) *には0～Fが表示され ますが、無視してください。	☀ ● ☀	交互	室外ファン用IPDU異常	IPDU																																																			
P24	P24	検出蓄熱ユニット番号	☀ ● ☀	交互	蓄熱ユニット異常(代表コード)	蓄熱																																																			
P26	P26	01:圧縮機1側 02:圧縮機2側 03:圧縮機3側	☀ ● ☀	交互	G-TR短絡保護異常	IPDU																																																			
P29	P29	01:圧縮機1側 02:圧縮機2側 03:圧縮機3側	☀ ● ☀	交互	圧縮機位置検出回路系異常	IPDU																																																			
P31	—	—	☀ ● ☀	交互	他の室内異常(グループ子機異常)	室内																																																			

7 故障診断 (つづき)

TCC-LINK集中管理機器が検出する異常

点検コード			ワイヤレスリモコン		点検コード名	判定機器
集中制御 機器表示	室外7セグメント表示		受信ユニット受光部 ブロック表示			
	補助コード		運転	タイマー 準備中		
C05	—	—	—		TCC-LINK集中管理機器送信異常	TCC-LINK
C06	—	—	—		TCC-LINK集中管理機器受信異常	TCC-LINK
C12	—	—	—		汎用機器制御インターフェース一括警報	汎用機器 I/F
P30	警報発生ユニットの異常内容により異なる				グループ制御子機異常	TCC-LINK
	—	—	(L20を表示)		集中管理アドレス重複	

8 フロン排出抑制法による冷媒充填量記載のお願い

- 機器の設置時にフロン類を充てんした場合は、充てんを行った者がフロン類の種類と充てん量を表示することが、法的に義務付けられています。
- 設置工事時の追加冷媒量、総冷媒量、冷媒の二酸化炭素換算値および設置時に冷媒を充填した事業者名を室外機の追加冷媒記録欄に記入してください。
- 総冷媒量は、出荷時の冷媒量と設置時の追加冷媒量の合計値を記入してください。
出荷時の冷媒量は室外機の「装置銘板」に記載された冷媒量です。
- R410Aの地球温暖化係数(GWP)は「2090」です。
二酸化炭素換算値は、総冷媒量に 2.09 トンを掛け算した値です。
- 既に表示がなされている機器の修理や移設などで、表示内容に変更を生じた場合は、フロン類の量と冷媒量の二酸化炭素換算値を再表示してください。



お願い

フロン排出抑制法に基づく点検実施のお願い

本製品を所有されているお客様は、フロン排出抑制法に基づく点検を実施してください。
 “点検記録簿”には、機器を設置したときから廃棄するときまでのすべての履歴を記載してください。
 費用等点検に関する詳細につきましては、お買い上げの販売店または東芝エアコン空調換気ご相談センターにお問合せください。
 「点検記録簿」に関しては、下記サイト内にありますので、ダウンロードしてご使用ください。
 日本冷凍空調設備工業連合会のホームページ：http://www.jarac.or.jp/

9 室内ユニット設定確認

お客様に引き渡す前に、今回の据え付けた室内ユニットのアドレス及び設定を確認し、チェックシート（下表）に記入してください。チェックシートは4台分の記入ができますので、据え付けたシステムがグループ制御システムの場合は、他の室内ユニットに付属の据付説明書に分けて系統システムごと記入して、ご使用ください。

お願い

据え付け後のメンテナンスとして必要ですので、必ず記入をしてお客様に本据付説明書をお渡しください。

室内ユニット設定チェックシート

室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット		
形名			形名			形名			形名		
室内ユニットのアドレスを確認してください。（確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。） （項目コード：系統 [12]、室内 [13]、グループ [14]）											
系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ
各種設定			各種設定			各種設定			各種設定		
フィルタサイン点灯時間を変更しましたか。未実施の場合は「変更なし」に、変更した場合は変更した「項目」に「レ」印を付けてください。 （確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）											
フィルタサイン点灯時間 （項目コード [01]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H [0001] <input type="checkbox"/> 2500H [0002] <input type="checkbox"/> 5000H [0003] <input type="checkbox"/> 10000H [0004]			フィルタサイン点灯時間 （項目コード [01]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H [0001] <input type="checkbox"/> 2500H [0002] <input type="checkbox"/> 5000H [0003] <input type="checkbox"/> 10000H [0004]			フィルタサイン点灯時間 （項目コード [01]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H [0001] <input type="checkbox"/> 2500H [0002] <input type="checkbox"/> 5000H [0003] <input type="checkbox"/> 10000H [0004]			フィルタサイン点灯時間 （項目コード [01]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし [0000] <input type="checkbox"/> 150H [0001] <input type="checkbox"/> 2500H [0002] <input type="checkbox"/> 5000H [0003] <input type="checkbox"/> 10000H [0004]		
検出温度シフト値を変更しましたか。未変更の場合は「変更なし」に、変更した場合は変更した「項目」に「レ」印を付けてください。 （確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）											
検出温度シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし [0000] <input type="checkbox"/> +1℃ [0001] <input type="checkbox"/> +2℃ [0002] <input type="checkbox"/> +3℃ [0003] <input type="checkbox"/> +4℃ [0004] <input type="checkbox"/> +5℃ [0005] <input type="checkbox"/> +6℃ [0006]			検出温度シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし [0000] <input type="checkbox"/> +1℃ [0001] <input type="checkbox"/> +2℃ [0002] <input type="checkbox"/> +3℃ [0003] <input type="checkbox"/> +4℃ [0004] <input type="checkbox"/> +5℃ [0005] <input type="checkbox"/> +6℃ [0006]			検出温度シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし [0000] <input type="checkbox"/> +1℃ [0001] <input type="checkbox"/> +2℃ [0002] <input type="checkbox"/> +3℃ [0003] <input type="checkbox"/> +4℃ [0004] <input type="checkbox"/> +5℃ [0005] <input type="checkbox"/> +6℃ [0006]			検出温度シフト値設定 （項目コード [06]） <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし [0000] <input type="checkbox"/> +1℃ [0001] <input type="checkbox"/> +2℃ [0002] <input type="checkbox"/> +3℃ [0003] <input type="checkbox"/> +4℃ [0004] <input type="checkbox"/> +5℃ [0005] <input type="checkbox"/> +6℃ [0006]		
別売品組込み			別売品組込み			別売品組込み			別売品組込み		
下記別売品を組み込みましたか。組み込んだ場合は各「項目」に「レ」印を付けてください。 （組み込み時に設定切換が必要な場合があります。設定切換方法は、各別売品に付属の取付説明書を参照してください。）											
<input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> その他（ ）

東芝キャリア株式会社

〒416-8521 静岡県富士市蓼原336番地

SN:EH99874101-④